

「神学校日、誕生記念会、懇談会」(2019.10.20)

「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」(詩編 133:1)

先週 10 月 13 日(日)は神学校日であった。東神大に学ぶ S 兄が久しぶりに帰横し、説教奉仕をしてくれた。「福音を恥としない」(ローマ 1:16)と大胆に告白するパウロの理由・根拠について解き明かされた。「こんな教えは恥すべきもの！」として、福音を宣教する主の弟子たちを迫害し、ダマスコにまで足を延ばしていた時に、パウロはその途上で復活の主イエスに出会った。いや、主イエスが出会ってくれた。さらに、ダマスコでは今自分が捕らえようとしていた主の弟子アナニアが祈ってくれた。パウロの目からうろこのようなものが落ちた。彼の目を真理から遮っていた覆いが、大泣きしたパウロの涙によって流されたのではないか。そして、福音は恥どころではない、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だ、そう確信するパウロの姿が浮かんで来て、感謝であった。

礼拝後、10 月誕生記念会と歓迎会とが開かれた。4 名の姉妹の誕生をお祝いし、愛唱讃美歌を歌い、一人ひとりから誕生日を迎えての感想を伺った。また、S 兄からは神学校生活の一端を伺った。夕礼拝後も一人の姉妹の誕生をお祝いした。短い時間だがこのような機会はお互いを知る貴重なひとときである。今後の互いの祈りが深まることと思う。

その後、第 1 回教会懇談会が開かれた。礼拝・伝道・信仰生活などについて互いの思いを共有できた。詳しくは後日紙面で報告されるが、特に 10 月 20 日の特別礼拝に関する声を前もって記したい。①年度目標「祈りの家と呼ばれる教会！」に沿う礼拝なので、是非とも教会員はじめ離れている方たちをも招く良い機会となればいい。②信仰の継承は難しいが祈りだけは継続したい。③絵「朝の祈り」は祈りの大切さを呼び覚ましてくれるので掲示したい、等々。是非、野口先生の説教「聖書の神は全能である」に聴き、祈りに対する私たちの固定観念を刷新させて頂き、一人ひとりが全能の神の前に小さく^{x2}なり、大きく^{x2}期待して祈る群、祈りの家へと成長したいものである。



密度の濃い 10 月 13 日だった。上掲の御言葉を心に響かせながら、深い眠りに落ちた。